【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成18年4月20日(2006.4.20)

【公開番号】特開2000-248039(P2000-248039A)
【公開日】平成12年9月12日(2000.9.12)
【出願番号】特願平11-53625
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｇ　18/48　(2006.01)
Ａ０１Ｇ　 1/00　(2006.01)
Ａ０１Ｇ　31/00　(2006.01)
Ｃ０８Ｇ　18/16　(2006.01)
Ｃ０８Ｇ　18/76　(2006.01)
Ｃ０８Ｊ　 9/02　(2006.01)
Ｃ０８Ｇ 101/00　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　75/04　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｇ　18/48　Ｆ
Ａ０１Ｇ　 1/00　３０３Ｄ
Ａ０１Ｇ　31/00　６０６
Ｃ０８Ｇ　18/16
Ｃ０８Ｇ　18/76　Ｚ
Ｃ０８Ｊ　 9/02　ＣＦＦ
Ｃ０８Ｇ　18/48
Ｃ０８Ｇ 101:00
Ｃ０８Ｌ　75:04

【手続補正書】
【提出日】平成18年3月1日(2006.3.1)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】請求項３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項３】
ポリイソシアネートがポリメチレンポリフェニレンポリイソシアネート、４，４’－ジフェニルメタンジイソシアネート、粗製ポリメチレンポリフェニレンポリイソシアネート、あるいはポリメチレンポリフェニレンポリイソシアネートの変性ポリイソシアネートである特許請求項１記載の植物固定支持用連続気泡ポリイソシアヌレートフォーム。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
【発明が解決しようとする課題】
以上の様に従来の植物固定支持用ポリウレタンフォームは連泡化率が低く、柔軟性を有していることから親水性は満足するが水吸収量が低く、しかもさし込み時にフォームが伸びてしまい、いわゆる均一圧力に対する均一挫屈ではなく従って柔らかい草花をさすことが困難であった。またイソシアネート　インデックスを上げて挿し込み性を向上させると

独立気泡が増し、更に吸水性が低下するという解決困難なものであった。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３９】
本発明に使用するシリコン系整泡剤としてはポリシロキサン－ポリオキシアルキレン共重合体であり、そのポリオキシアルキレン末端ＯＨ基が他の活性水素を有さない化合物でキャップされている構造をなす必要がある。好ましい具体的例としては１～４のアルコキシ基、アセトキシ基、あるいは脂肪族アシロキシ基で単独あるいは併用でキャップされた構造であり、更に好ましくは１～４のアルコキシ基、並びにアセトキシ基である。またオキシエチレン鎖は全オキシアルキレン鎖の３０重量％以上含有するのが良い。本ポリシロキサン－ポリオキシアルキレン共重合体の代表的化学構造の例としては下記の通りである。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５７】
比較例１
グリセリンにエチレンオキサイドとプロピレンオキサイドを７８／２２の割合でランダムに付加させた分子量約３４００のポリエーテルポリオール（Ｐｏｌｙｏｌ－１）を使用し実施例２と同様にポリイソシアヌレートフォームを製造した。但し、シリコン系整泡剤については、ポリオキシアルキレン末端がＯＨ基でキヤップしたシリコン系整泡剤（シリコン系整泡剤－５）を使用した。本フォームは実施例２同様に活性水素を有さないポリオキシアルキレン誘導体並びにアニオン系界面活性剤を使用しているが吸水時間テストでは４８６０秒となり、水を全く吸収しなかった。浸水時間テストでも全く沈まなかった。物性を表２に示す。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５８】
比較例２
グリセリンにエチレンオキサイドとプロピレンオキサイドとを７８／２２の割合でランダムに付加させた分子量約３４００のポリエーテルポリオール（Ｐｏｌｙｏｌ－１）並びにグリセリンにプロピレンオキサイドを付加させた分子量３０００のポリエーテルポリオール（Ｐｏｌｙｏｌ－２）、粗製ポリメチレンポリフェニレンポリイソシアネート（ｐａｐｉ－１３５）、活性水素を有さないポリオキシアルキレン末端をメトキシ基でキヤップしたシリコン系整泡剤－１を用い、活性水素を有さないポリオキシアルキレン誘導体を用いずポリイソシアヌレートを発泡したが消泡して正常のフォームとはならなかったので物性の測定はできなかった。